

令和6年度

P T A 研 修 会

記 録 集

新宿区教育委員会

令和6年度 P T A 研修会一覧

対象	研修名	日時または 配信期間	会場	参加人数 または 延べ視聴人数	内容	ページ
小学校 PTA	全体研修会	7月29日(月) 9:30～11:30	Zoom配信	32	テーマ：子どもが主語の学校・学びと育ちを支えるPTA 講師：森 万喜子 (元小学校長)	1
		8月7日(水)～ 10月15日(火)	YouTube配信	77		
	広報委員 研修会	7月31日(水)～ 10月4日(金)	YouTube配信	72	テーマ：デジタル化に対応した効果的なPTA広報紙作り 講師：富松 愛子 (株式会社アイコとバ 代表取締役)	2
	校外安全委員 研修会	7月17日(水)～ 9月20日(金)	YouTube配信	128	テーマ：防犯という視点からPTAにできること—最新の事例から考 える防犯対策— 講師：舟生 岳夫 (セコム株式会社IS研究所 主務研究員)	3
	学年・学級代表 委員研修会	7月31日(水)～ 10月4日(金)	YouTube配信	113	テーマ：性の多様性やLGBTQ+を入り口に考える とともに生きる ということ 講師：鈴木 茂義 (NPO法人プライドハウス東京理事・公立小学校非常勤講師)	4
	特別研修	11月20日 (水)	Zoom配信	25	テーマ：すぐーる研修会 講師：新宿区教育委員会事務局学校運営課職員	5
12月10日 (火) ～ 令和7年3月31日 (月)		YouTube配信	55			
中学校 PTA	中学校PTA 研修会	12月4日 (水) 18:00～20:00	西早稲田中学校	26	テーマ：思春期の子どもに寄り添い、確かな成長を支援する保護者 のための研修会～発達障害・不登校の子どもとの関わり方～ 講師：長谷川 安佐子 (元新宿区教育委員会特別支援教育相談員・元全国情緒障害教育研 究会事務局長)	6
幼稚園 PTA	幼稚園PTA 研修会	7月3日(水) 10:00～12:00	教育センター	21	テーマ：おとなに伝わる魔法の聞き方伝え方～言葉がけひとつで変 わるコミュニケーション術～ 講師：島谷 留美 (親子カウンセラー・言葉がけコーチ)	7

実施回数 7回 延べ参加人数549名

【内訳】

幼稚園PTA	1回	21名
小学校PTA	5回	502名
中学校PTA	2回	26名

小学校 PTA 全体研修会

「子どもが主語の学校・学びと育ちを支える PTA」

実施日時：7月29日（月）9:30～11:30（Zoom 配信）

YouTube 配信期間：8月7日（水）～ 10月15日（火）

講師：森 万喜子（元小学校長）

《講演概要》

Zoom によるオンライン研修という形で実施され、①講師による講話、②グループトーク、③全体へのフィードバックという構成で進められ、参加者が率直に自身の思いを話し合う参加型の研修会だった。

研修内で森先生からは、

- ・大人や学校のため、でなく、あくまで子どもが主役ということが本質。

目的は何？何のためにやるの？と本質と原点を忘れないように活動することが大事。

- ・PTA は奉仕活動ではなく、親の学びの場・社会教育活動であり、親自身が楽しむことが大事。

強制的に活動するのではなく、できることをできる人ができる時にするのが基本

- ・今の時代の状況や、子どもたち・私たちに合わないものはやめる、減らす、捨てるということも大事

・ピアサポートについて、PTA はゆるい仲間がいい、イベントや催しだけでなく自身が楽しむことが大事、心理的安全性が担保される環境づくりを進めていくことが大事

- ・困っている人の困りごとが見えない、存在しないように通り過ぎていないか、嘘っぽい組織にならない

- ・PTA メンバーは教育改革に最も近いところにいる大人、当事者として願いや思いを発信していこう、変える勇者になろう

といったお話があり、それらを通して、PTA の活動は義務でなく、肩の力を抜いて進めていけばいいんだと安心できた講義の内容だった。

後半はグループに分かれて 2 つのテーマに沿って対話・意見交換が行われ、最後に講師から参加者へのフィードバックがあった。以下、参加者の意見の一部を紹介。

（講義を聞いて共感したこと、大切にしたいと感じたこと）

- ・ゆるい仲間ができることはとてもありがたいことだと感じた
- ・多様な家庭やお子さんに向けてもっとできることがあるのではと感じた
- ・何のために変える必要があるのか、みんなで解決策を考えていき
- ・取捨選択していくべきという点に共感した

（子どもが主語の PTA となるために取り組みたいこと）

- ・それぞれの人が気持ちいい距離感でコミュニケーションが取れるコミュニティの形成
- ・ニーズ調査、どこに進んでいくのかを対話的に考えていく
- ・親以外の大人が子どもと関わるのが大切、他の家の子どもと挨拶して話をするところから関わりたい

《感想》

（アンケートより抜粋）

- ・PTA のこれからのあり方を再認識できた。他の学校の PTA 役員さんと意見交換でき、大変有意義だった。
- ・ゆるい活動という点に、共感すると同時に、PTA の課題が見えてきた。
- ・何かをしないといけないと言う重圧感が軽減されたので。また他校の PTA の考えも聞けて良かった
- ・PTA は奉仕活動でなく、親の学びの場社会教育活動という本質を改めて考えることができた

小学校 PTA 広報委員研修会

「デジタル化に対応した効果的な PTA 広報紙作り」

YouTube 配信期間：7月31日（水）～ 10月4日（金）

講師：富松 愛子（株式会社アイコとバ 代表取締役）

《講演概要》

YouTube 配信によるオンライン研修という形で実施された。

まず、富松愛子講師の自己紹介から始まった。広報 PR コンサルタントとして、今まで 100 社以上の企業や団体の広報活動を務めてきた。

テーマであるデジタル化に対応した効果的な PTA 広報紙作りだが、背景として「コロナ禍をきっかけにアナログ（紙）からデジタルに移行してきた」とのことだった。紙とデジタルの違いは、伝達スピード、印刷代、物理的なコストがあり、紙のよさもあるが、デジタルを進めることがメリットであるとのことだった。

広報紙作成時の 6 つのポイント

1. 見出しは簡潔に興味を引くワードを心掛ける
2. 文章は読みやすさを重視し、具体的なエピソードを盛り込む。
携帯で見ることが前提なので短い方が良い。
3. 写真は明るく鮮明に
4. イラストのコツとして、学校のカラーを使うなど記事全体で同じスタイルのイラストを使い統一感を出す。
5. 記事と写真の配置は、文章と写真を交互に配置する。
6. リンクと二次元コードを活用し、個人情報に気を付けること

おすすめの無料アプリ（Canva）PTA 広報紙と検索するとたくさんのフォーマットが出てくる。

講演のまとめ

1. 紙からデジタルへの移行期
2. 多くの保護者に見てもらうための工夫
3. 無料で簡単に使えるツールを活用

《感想》

（アンケートより抜粋）

- ・広報のデジタル化に取り組んでいる最中なので、問題点や改善点など、まさに同感する点が多かったです。
- ・デジタル化は、簡単にアクセスできるため、一人でも多くの人に PTA の活動内容を知ってもらうことができ、今後、役立つと思いました。
- ・スマホで閲覧しやすくするための工夫など、紙媒体との注意点の違いが分かってよかった。
- ・デジタル広報誌を作っている学校が思った以上あり、本校もそうなればと思い、とてもよい内容でした。
- ・気軽にデジタル化に取り組みそうな心持ちになれた。また、PTA 広報は学校の情報だけでなく、自分達 PTA について知ってもらう

小学校 PTA 校外安全委員研修会

「防犯という視点から PTA にできること—最新の事例から考える防犯対策—」

YouTube 配信期間：7月17日（水）～9月20日（金）

講師：舟生 岳夫（セコム株式会社 IS 研究所 主務研究員）

《講演概要》

舟生講師の自己紹介から始まり、以下の流れで研修が行われた。

1 最近の犯罪情勢

国内犯罪の認知件数や検挙率、泥棒被害、侵入手口（鍵かけ忘れが過半）、未成年者を狙う犯罪、未就学児の犯罪被害、小学生の犯罪被害の年別推移とそのカテゴリ別の割合をグラフ表示。右肩下がりに減少していた犯罪が 2022 年以降増加傾向にある。

2 連れ去りの手口と対策

2023 年に大幅に増加。犯行目的の変化、狙われている年齢割合、子どもを誘う手口、声をかけられたときの対処法、断り方のポイント、子どもに絶対に教えておくこと。知らない人の定義。保護者が心がけるべきこと。※近年は身代金からいたずらや猥褻の比率が高くなっており、0 歳～12 歳が狙われるケースが多く男性被害も増えていることなどの注意喚起。

3 インターネット・SNS の注意点

サイバー犯罪の検挙件数、ネットアクセスに伴う様々な危険、ネットの政界の怖さ、SNS を積活時の心得、ネットセキュリティのポイント、個人情報漏洩の危険性等

4 危機回避能力を高めるために

防犯グッズの種類、防犯ブザー注意点、子どもとのコミュニケーションの大切さと注意点

5 まとめ

《感想》

（アンケートより抜粋）

- ・基本的な防犯対策の事例は子供の日々の生活の中の注意点を再確認でき、子供にも分かりやすく説明しやすい内容はとても良かったです。
- ・改めて連れ去り、防犯、SNS の怖さを再確認できた。
- ・子どもの危機回避能力を高める重要性、日頃から親子のコミュニケーションを円滑にし、危険を未然に防ぐことの重要性を再認識できた
- ・コロナが落ち着いてから、子供を巻き込まれる犯罪が増えていることを知り、再度親子で危機管理をしようと思いました。
- ・日頃から地域とも連携する事で、より子どもたちを守れる環境にできたらと思った
- ・学校、家庭、地域が連携して子どもたちの安全を守ることの大切さを再認識できたので、校外委員の活動に活かしていきたい

小学校 PTA 学年・学級代表委員研修会

「性の多様性や LGBTQ+ を入り口に考える ともに生きるということ」

YouTube 配信期間：7月31日（水）～ 10月4日（金）

講師：鈴木 茂義（NPO 法人プライドハウス東京理事・公立小学校非常勤講師）

《講演概要》

- ・多様性とは？
 - 2種類の多様性がある
 - 社会の中の多様性
 - 私の中の多様性（多層性）
 - 見えやすい要素
 - 見えにくい要素
 - そのうち性自認や性的指向については学校教育の場でも注視されている
- ・自己紹介
 - 自身も LGBTQ+ の当事者（G）である。
 - 自身のライフストーリーから LGBTQ+ について読み解く
 - 小さいころから自分のことを素直に語れない辛さがあった
 - 大人になり、教員として児童と向き合う中で、自己矛盾を感じるようになった
 - カミングアウトのきっかけ：「OUT IN JAPAN」プロジェクトとの出会い（動画の紹介）
 - 周囲の人は、違和感や抵抗感があってもネガティブな形で表出しなければ問題ない
 - 何よりも知ること、学ぶことが大事であると考えている
 - カミングアウトの結果、児童・保護者ともにポジティブな意見が多かった
- ・LGBTQ+ の基礎知識
 - LGBTQ+ それぞれの文字の意味
 - プライドハウス東京レガシーの紹介
- ・ともに生きるということ
 - 過去の出張授業のケーススタディ
 - 授業を受けた児童と保護者のフィードバックの紹介
 - カミングアウトを受けた際のポイントを説明
- ・まとめ
 - 真の自立とは、依存先・安全地帯を増やすこと

《感想》

（アンケートより抜粋）

・講師の方の優しい語り口調に、自分も素直な気持ちで聞くことができました。自分の一部分でも偽って相手に伝えなければいけないのはつらいことだと、LGBTQ 当事者の方が日常感じていることを少し知ることができてよかった。

・LGBTQ+ の基本的な理解から、具体的な接し方まで、子供でも分かりやすい丁寧な説明でした。子供達にもぜひ見て欲しいです。

・子どもも保護者も多様性がある、みんなにとって学校が安心・安全な場所になるとよいと学んだ。PTA 活動の方向性もその点を大事にしていきたいと感じた。

小学校 PTA 特別研修会

「すぐーる研修会」

実施日時：11月20日（水）10:00～11:00（Zoom 配信）

YouTube 配信期間：12月10日（火）～ 3月31日（月）

講師：新宿区教育委員会事務局学校運営課職員

《講演概要》

PTA でも「すぐーる」を活用することで、より多くの保護者に情報を届けることを目指し研修会が行われた。

1、学校運営課職員による操作説明

新宿区教育委員会では令和6年度より「すぐーる」を導入し、PTA、部活動指導員、学校関係組織も利用し始めている。

2、質疑応答

①質問：PTA チャンネルに登録していない人への周知方法は？

回答：PTA から施設管理者へ依頼し、学校の核チャンネルから配信を行うことは可能。

②質問：相互コミュニケーションが必要な場合があるが、「すぐーる」に機能追加の予定は？

回答：アンケート機能はあるが、個人チャット機能の導入予定はない。今後検討する。

③質問：PTA「すぐーる」導入後の評判は？

回答：結石や遅刻連絡がアプリで行えること、学校だより等を電子データで確認できることが好評。

④質問：PTA「すぐーる」のタイムラインはどのように活用されている？

回答：タイムラインがチャンネルごとに分かれていないため、PTA の活用は難しい。

⑤質問：PTA 配信の承認は PTA で行うべきか？

回答：基本は施設管理者（校長、副校長）が承認を行う。必要に応じて学校運営課が対応する。

3、活用事例発表

①戸塚第一小学校

PTA からイベントや総会のお知らせを配信。副校長先生と承認のやり取りを行う。来年度は副会長全員が操作できるようにしたい。

②落合第四小学校

紙配布からの移行により配布物の手間が減り、好きなタイミングで配信依頼ができる。個別配信できないことが課題。

《感想》

（アンケートより抜粋）

- ・具体的なオペレーションや事例共有により活用イメージを確認できた。
- ・PTA で実際に運用する場合の手順が詳しく分かりとても良かった。
- ・管理画面の具体的な操作、導入前後のフローについて詳細をうかがえた
- ・とてもわかり易かったですし、他校の事例も聞けて良かったです
- ・学校やら PTA 内での議論のきっかけを得ることが出来た。
- ・動画としてまとめていただいたので、役員間での情報共有がスムーズにできると感じました。

中学校 PTA 研修会

「思春期の子どもに寄り添い、確かな成長を支援する保護者のための研修会～発達障害・不登校の子どもとの関わり方～」

開催日時：12月4日（水）18:00～20:00（会場：西早稲田中学校）

講師：長谷川 安佐子（元新宿区教育委員会特別支援教育相談員・元全国情緒障害教育研究会事務局長）

《講演概要》

講師の先生が小学校で通級指導教室（現 まなびの教室）に勤務されていた時や教育委員会で相談員をされていた時の経験をもとに、いくつかの実例をあげながら、主に発達障害が起因となる不登校についての講演であった。

○発達障害は13年で10倍となっており、まなびの教室がいっぱいとなっている現状。

○発達障害の種類と特徴

先生が担当した生徒や著名人の発達障害について具体的な説明があった。

- ・自閉症スペクトラム症（ASD）：拘りが強い、IQにばらつきがある（特定の事柄だけ高いや低い）
例）状況判断が苦手なため大人に怒られる。細かな説明がないと対応できないため乱暴に思われる。
- ・注意欠陥多動性障害（ADHD）：落ち着きがない、怒りのコントロールが苦手、自己評価が低い
例）チョロチョロしたりキョロキョロしたりする。怒ると机を投げたりするため乱暴に思われる。
- ・学習障害（LD）：読み書きへの抵抗
例）鉛筆を持つのもイヤ。板書を写せないため学習が遅れる。まとめて単語を読めない。

○親や大人ができること

- ・大人が怒ると子どもは自分ができない子だと思ってつぶれてしまうため、良いところを認める。
- ・怒る時は、前に遡らず今のことだけを怒り、その子を怒るのではなく行為そのものを注意する。
- ・事前に分かっているとできるが、突然や途中で言うてできないので、大切なことは予告しておく。
- ・耳だけでは忘れてしまうので、写真や文字を見せて説明したり書かせたりする。
- ・元気でいる環境（睡眠、食事、運動）を作る。

《感想》

（アンケートより抜粋）

- ・中2の反抗期の息子の接し方の参考になった。発達障害も不登校の要因の一つであることを知った。
- ・今後の子どもへの接し方の勉強になった。自分自身の方向性も見えて、気持ちが楽になった。
- ・息子の発達が気になり、何か息子のために役立ちことがあればと思い参加した。今後活かせそうです。
- ・前半は、当事者からすると、虫歯が痛いのに眼下に来た気分でした。一般の方向けだったのですね。
- ・少しずつでも保護者にこの考え方が広まっていけば、このような生徒への理解に繋がると思う。
- ・発達障害の子どもたちが困っていることがある。その切り口から不登校の子にアプローチができるかと思っただけ。安心できる場所を考える参考になるかと思った。
- ・不登校になった時に学校以外にも行ける場所（つくし教室など）があるということを学校から早く教えてもらえると、親の気持ちも少し楽になるのではないかと。不登校になったら親がどんな行動をしたらいいかという情報が少ないと思う。

幼稚園 PTA 研修会

「おとなに伝わる魔法の聞き方伝え方～言葉がけひとつで変わるコミュニケーション術～」

開催日時：7月3日（水）10:00～12:00（会場：教育センター）

講師：島谷 留美（親子カウンセラー・言葉がけコーチ）

《講演概要》

PTA 会長としてのメッセージの伝え方・聞き方・保護者間における円滑なコミュニケーションの取り方を学び、ペアワークも実施した。

- ・率直にわたしを語る＝わたしメッセージ

わたしを語る、不安・弱み・良いことも含め心を開示すると相手の反応が変わる。

- ・相手を変えることでなく自分が変わることによって相手が変わることがある。（お互いの境界線をとれるコミュニケーションプログラム アメリカ臨床心理学 トマス・ゴードン博士より）

- ・やる気がなくなる言葉がけ＝あなたメッセージ

人をお願いするときは自分を開示して率直にわたしメッセージで伝える。

- ・この先起こることに対して予防的に伝えるわたしメッセージ

行いたいこと、その理由を伝えると相手が協力してくれる可能性がある。

- ・感謝の気持ちを伝える言葉がけ

評価する人とされる人にならないよう結果にフォーカスすることなく褒める。感謝の言葉を毎日伝える。事実を具体的に褒めるとお互いの関係に良い。親子関係にも使える。

- ・聞き方

聞く側のルールは「は・ふ・へ・ほ・そ」「はい・ふーん・へー・ほー・そうなんですね・それから」相手が主役になって話を聞く。ドアオープナー相手の話を引き出す。

アクティブリスニング気持ちを察して相手の言葉を繰り返して話す。解決策をすぐに出さなくてよい。

- ・頼んだことをしてくれない時の対応

- ・LINE での文書トラブル対処法

最終的に会長の権限で決定してもよい。ひとりで頑張らずに相談してくださいとエールを頂いた。

今後の「幼稚園 PTA 研修会」フォローアップ、対面個別カウンセリングの案内、著書の紹介

《感想》

PTA 会長になるとコミュニケーションの幅がぐっと広がり難しい対応を迫られる場面がある。保護者同士、距離が近いからこそ慎重にならなくてはいけない面もあり悩んでいる会長も多い。前年度のうちに講師から会長としての困りごとや悩みごとに関するアンケートが行われ、みなさんからの声を反映させた研修内容だったこともあり、より満足度の高い研修になったと思う。

大人同士の日常的なコミュニケーションのコツや考え方を具体期に学ぶことができた。PTA 会長ばかりでなく、誰でも明日からの仕事や生活に役立てられる内容であった。

令和6年度
PTA研修会 記録集

新宿区教育委員会事務局教育支援課
地域連携・家庭教育推進係
電話 03(3232)1078